

福祉コミュニティの拠点づくり

有限会社 サカタ

高齢者や障害者が地域でその人らしく安心して暮らせるために

坂田さんは有限会社サカタの代表。地域にけるボランティア活動の中で、公的福祉サービスの狭間にいる高齢者や障害者等の、地域で気軽に人と交流し、何でも相談できる場のニーズを実感したそうです。活動を始めた頃よりも、福祉制度は充実しましたが、そうしたニーズは大きくなっているといいます。

地域で安心して暮らせるためには、福祉サービスの充実とともに、ごく自然にその人らしく地域で交流することが欠かせません。有限会社サカタは、そのようなニーズを受けて、社会福祉事業や地域福祉活動の場を提供し、福祉コミュニティの拠点づくりの一助になることを目指しているといいます。



きっかけは自分の家族とそこから始まったボランティア活動から

地域で支える仕組みがなかった頃、坂田さんの家族が認知症になり、これまでの生活が一転しました。家族のどうしようもない気持ちの、同じように悩む家族との分かち合いから、地域でともに支えあう活動（にこにこクラブ）に関わり、阪神淡路大震災を教訓に、「ボランティア香川」をつくり高齢者や障害者等を地域で支える活動に発展していきました。

坂田さんは、そうした活動の中で、顔が見える地域で、公的福祉サービスだけでなく、小回りのきいた地域福祉活動とその拠点の必要性を強く感じたといいます。

一方で、ボランティア香川が支援していた知的障害者グループホームが、新たな事業拠点を求めていたことと、坂田さんの土地活用の問題が重なり合いました。

組織体制・主な財源

| | |
|-------------|----|
| ◆体制 | |
| 有限会社取締役代表 | 1名 |
| ボランティア | 8名 |
| 引きこもりの知的障害者 | 1名 |

| | |
|---------------|--|
| ◆主な財源 | |
| 社会福祉事業所等の賃貸収入 | |
| 喫茶・食堂の収入 | |
| 福祉サロンの使用料収入 | |

そうした中で、JR相模線香川駅前の立地条件の良い駐車場敷地を維持し、地域における福祉活動の拠点を提供する両面から、駐車場を立体化して、「コミュニティ香川」という建物を建築し、収益を地域福祉活動に還元するために、有限会社サカタを設立されました。

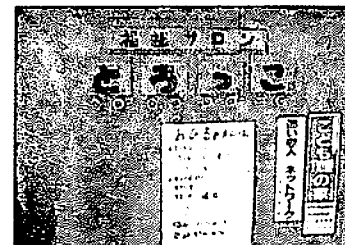
地域の「ひと」からはじまり、「もの」から広がる「こと」

コミュニティ香川には、社会福祉法人湘南福祉センターが知的障害者福祉として運営するグループホーム「下宿屋」と「ヘルパー事業所」、授産施設である「工房絵(かい)」というパン工房、そして、有限会社サカタが管理する福祉サロンのスペースがあります。

そのように、建物の一部を社会福祉事業所に賃貸することによって、その収益を誰もが参加できる地域福祉に還元する形で、福祉活動の拠点としての福祉サロンが成り立っているといいます。

ここでは、ボランティア香川が運営する自主事業としての高齢者等ミニデイサービスや、地域住民による子ども向けの絵画教室などが定期的に開かれています。また、有限会社サカタ直営の「とろっこ」では、ボランティアと協力して、週3回、喫茶やランチを提供し、毎週金曜日には、グループホーム入居者向けに夕食を食べながら一杯飲める食堂の運営も行われています。

その他にも、同じ敷地の空き家だった建物を、株式会社結(ゆい)に賃貸し、「香川在宅介護よろず相談所結」として、介護保険事業が行われています。



地域で無理なく支え合う福祉コミュニティの拠点づくりに貢献したい

地域における高齢者や障害者等の暮らしのニーズは、公的福祉サービスとともに地域住民が参加する形で、隙間を埋めていかなければならないと、坂田さんは考えます。

そうした地域活動に参加する「ひと」と、それを支える「もの」や「こと」が、安定した地域福祉活動には必要であり、それが、有限会社サカタの地域における役割であるといいます。

有限会社サカタは、今後とも、地域で誰もが無理なく支え合う福祉コミュニティの拠点づくりに、貢献できればと考えられています。



連絡先 有限会社サカタ
福祉サロン「とろっこ」
〒253-0082 茅ヶ崎市香川5-4-24
コミュニティ香川B-2
TEL・FAX: 0467-87-1070